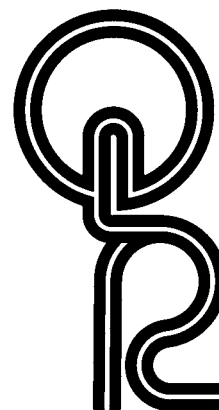


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 22 No.3, 2015



仙台湾における海底堆積物の採取風景。2011年の津波の痕跡が、仙台湾の底にどのように残されているかを調べた。(撮影：澤井祐紀)

Vol. 22 No. 3

June 1, 2015

2015年大会案内(第4報).....	2	幹事会議事録.....	9
INQUA 記念普及講演会のお知らせ ..	6	学生会員継続届提出のお願い	11
INQUA サポーター募集	7	会員消息.....	12
追悼	8		

◆日本第四紀学会 2015年大会案内（第4報）

1. 日時・開催場所

2015年8月29日（土）～8月30日（日）

（INQUA 名古屋大会直後のため、総会を含め2日間の短縮日程で行います）

早稲田大学教育学部（早稲田キャンパス 14・16号館）

東京都新宿区西早稲田 1-6-1

最寄り駅 地下鉄東西線「早稲田」、都電荒川線「早稲田」

2. 日程

8月29日（土）

10:00～13:00 評議員会

13:30～14:30 ポスターの概要説明（希望者のみ、1人3分）

14:30～16:00 ポスターセッションコアタイム

16:30～17:15 2014年学術賞受賞者講演（阿部彩子会員、一般に公開して行います）

17:15～17:45 2015年学会賞・学術賞等表彰式

18:00～20:00 懇親会

8月30日（日）

09:30～12:30 公開シンポジウム「第四紀学から防災教育へのメッセージ」

14:00～15:30 総会

15:30～17:00 ポスターセッションコアタイム

3. 発表の申し込み

(1) 発表者の資格と発表件数の制限

筆頭発表者は本学会の会員に限ります。1人1件のポスター発表が可能です。

(2) 発表の形式と発表時間

一般研究発表は**ポスター形式のみ**とします。2日間でポスターの張り替えは行わない予定です。

ポスターのサイズはA0縦長に対応（ポスターボードのサイズは横116cm×縦175cm）。

(3) 発表等申込書と講演要旨の送付方法

一般研究発表の希望者は、学会ホームページの「大会・総会」のページ

（<http://quaternary.jp/meeting/index.html>）から、2015年大会のサイトへ進み、「2015年大会発表等申込書」と「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」と書かれたリンク部分からファイルをダウンロードし、以下の案内にそって申し込みを行ってください。

- ・申し込みと要旨原稿の締切り：**6月30日（火）（締め切り厳守）**。
- ・発表等申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス [jaqua.event\(at\)gmail.com](mailto:jaqua.event(at)gmail.com) に送付してください（atを@にかえる）。メールの題名は「発表申込_筆頭発表者名」、添付ファイル名は「講演要旨_筆頭発表者名」としてください。
- ・講演要旨の原稿は、「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。原稿のサイズは一般発表はA4で1ページ、シンポジウム講演は2ページです（図表掲載可）。
- ・29日午後のポスターの概要説明（3分間プレビュー）を希望する方は、申込書の該当箇所にチェックを入れてください。
- ・手書きによる原稿、および郵送による投稿の方は上記専用アドレスにお問い合わせください。

(4) 若手・学生発表賞へのエントリー

本会会員で大会時39歳以下の方は、発表形式・テーマにかかわらず若手・学生発表賞にエントリーすることができます。エントリー希望の方は、発表申込書の若手・学生発表賞エントリー欄の該当箇所にチェックを入れてください。積極的なエントリーを期待しております。

(5) 知的財産権に関する講演要旨執筆上の注意点と同意の方法

発表申し込みの際には、次に示す「講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入（入力）することで成立することとします。

・講演要旨執筆上の注意

2015年3月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか（2005）第四紀研究, 44, 371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含めないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

【INQUA 名古屋大会でポスター発表を行う予定の方へ】

第四紀学会 2015 年大会（早稲田大会）の一般研究発表と、INQUA 名古屋大会の発表に同一のテーマで申し込む場合は、その**内容が重複しないように（二重投稿とならないように）注意してください**。これを避ける意味も含め、また INQUA 大会の成果を学会内で共有することを目的として、早稲田大会の会場では INQUA 大会で発表されたポスターの再掲示のスペースを準備します。INQUA 大会でポスター発表を予定している方には大会前に登録のお願いをさせていただきますので、ご対応頂けますよう、よろしくお願い致します。

4. 参加費・懇親会申し込み等

- ・大会参加費：2000 円（会員・非会員問わず）。会場受付でお支払いください。（ただし、大学院生の会員は 1500 円、70 歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料）
- ・講演要旨集：2000 円（予定）。会場で販売します（発表数等によって価格が変更される場合があります）。
- ・会期中の昼食：大学周辺の店をご利用ください（夏休み中で生協や大学周辺の飲食店は休業中のところが多いと思われますので、弁当等もご考慮ください）
- ・懇親会に参加される方は人数把握のため、なるべく事前にお申し込みください。

日時：8月29日（土）18:00～

会場：早稲田大学構内

懇親会費（事前申し込み）：一般 5000 円、学生 2500 円（当日：一般 6000 円、学生 3000 円）

事前申し込み：8月10日（月）までにメールの件名を「懇親会参加申し込み」として

jaqua.event(at)gmail.com までご連絡いただく、または上記「3.」の発表等申込書を使ってお申し込みください。

5. シンポジウム

公開シンポジウム「第四紀学から防災教育へのメッセージ」

日時：8月30日（日）09:30～12:30

世話人：久保純子（早稲田大）、植木岳雪（千葉科学大）、卜部厚志（新潟大）

●シンポジウムの趣旨

自然環境と人類の歴史を研究する第四紀学は、過去の地震や火山などの自然現象やそれによる災害についてもさまざまな研究をすすめてきました。これらの研究成果を社会に還元するテーマとして、今回は「防災教育」をとりあげます。「防災教育」は学校で行われているものだけではありません。地域や行政などさまざまな場で、国や世代を超えてすすめられるものです。本シンポジウムでは第四紀

2015年大会案内

学が防災や防災教育の分野で生かされた事例や、防災のリテラシー向上のための提言など、この分野で活動、発言している会員の招待講演と参加者による討論を予定しています。

●プログラム（予定）

- 09:30-09:35 趣旨説明（久保・植木・ト部）
- 09:35-10:00 宮城豊彦（東北学院大）「第四紀学を踏まえて作る地域防災・減災の処方箋はあるか」
- 10:00-10:25 藤岡達也（滋賀大）「持続可能な社会と地域防災、学校防災」
- 10:25-10:50 井村隆介（鹿児島大）「防災教育で何を教えるか？～学校と地域の連携：霧島市と志布志市での実践例をもとに～」
- 10:50-11:00 休憩
- 11:00-11:25 ト部厚志（新潟大）「中学生にむけた防災教育の取り組み：地域の地震と洪水リスクを考える試み」
- 11:25-11:50 植木岳雪（千葉科学大）「危機管理からみた防災教育：第四紀学の視点 防災に関する一般市民向けの講演の事例から」
- 11:50-12:30 コメントおよび総合討論

6. 巡検

今回は巡検は行いませんが、29日と30日の昼休みに早大生有志によるキャンパスツアーを計画しています（無料、事前申し込み不要）。

7. 大会実行委員会

実行委員会委員長 久保純子

実行委員 小森次郎（幹事会）、小松哲也、谷川晃一朗、南雲直子、船引彩子、山本隆太、廣野聡子（早大）

連絡先：2015年大会実行委員会事務局

新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学教育学部

大会用 E-mail アドレス: jaqua.event(at)gmail.com (送付の際には (at) を @ に変えてください)

重要日程

- ・一般発表申し込み締切：6月30日（火）
 - ・懇親会事前申し込み締切：8月10日（月）
-

会場へのアクセス・宿泊

（会場）早稲田大学教育学部（早稲田キャンパス 14・16号館）

最寄り駅：地下鉄東西線「早稲田」下車徒歩約10分（地下鉄副都心線「西早稲田」ではありません）、

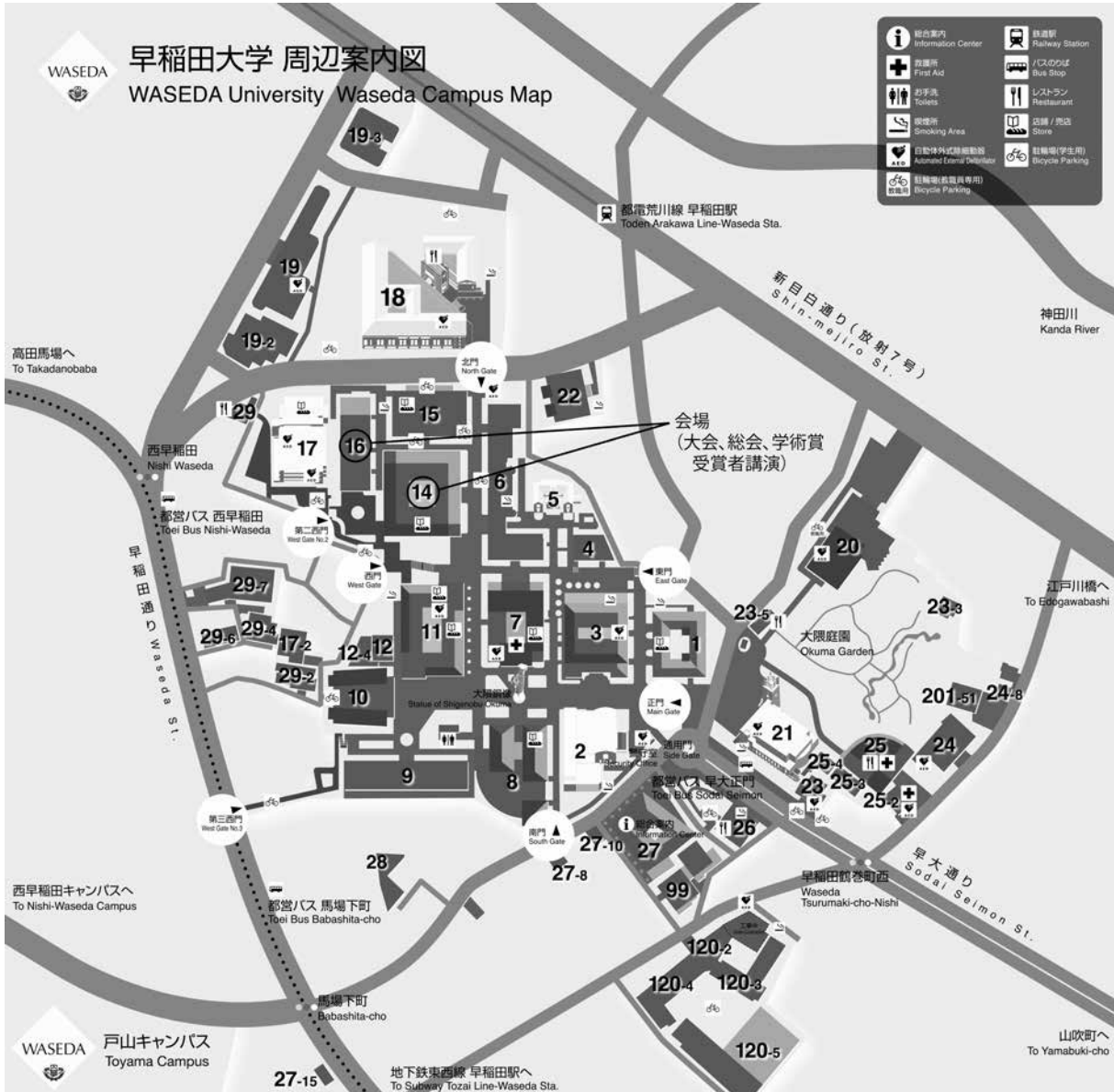
都電荒川線「早稲田」下車徒歩約5分、

JR 高田馬場駅前より学バス早大正門行き「西早稲田」下車徒歩約3分

宿泊施設は都内に多数ありますので各自でお手配ください。

地図

<http://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>



◆国際第四紀学連合 (INQUA) 第 19 回大会開催記念 一般普及講演会ならびに関連展示のご案内

今夏に日本で INQUA 大会が開催されることを機に「第四紀」ならびに「第四紀学」という言葉とその研究内容・意義を多くの方々に知ってもらうため、開催地である名古屋の周辺におきまして、下記の通り、一般普及講演会および関連展示を開催致します。それぞれ申込方法が異なるのでご注意ください。

会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

【普及講演会】

(1) 「第四紀学で読み解く地球の歴史」

日 時： 2015 年 7 月 5 日 (日) 14:00 ~ 16:00 (開場 13:50)

会 場： 名古屋市科学館 サイエンスホール

定 員： 300 名 (事前申込制)

料 金： 講演会への参加費は無料ですが、科学館への入館料が必要です。

講演内容： 『水月湖の年縞時計が世界の標準になる』 北川浩之 (名古屋大学)

『くりかえす巨大地震の歴史をほり起こす』 穴倉正展 (産業技術総合研究所)

申込方法： 往復はがきの往信欄に「氏名、住所、連絡先電話番号」を記入の上、6 月 1 日 (月) までに到着するように学会事務局へお送り下さい。1 枚で 5 名までお申し込み頂けます。

(2) 「東海層群の昆虫化石」

日 時： 2015 年 7 月 11 日 (土) 13:30 ~ 15:30

会 場： 三重県総合博物館 レクチャールーム

定 員： 80 名 (事前申込制)

料 金： 講演会への参加費は無料ですが、展示室への入館料が必要です。

講演内容： 『三重県の東海層群調査』 中川良平 (三重県総合博物館)

『東海層群の昆虫化石』 森 勇一 (金城学院大学)

申込方法： 6 月 20 日 (金) までに往復はがきまたはメールでお申し込み下さい。

宛名または件名を「東海層群の昆虫化石係」とし、参加者全員の氏名、年齢、代表者の住所、当日連絡が取れる電話番号をご記入下さい。

(はがき送付先) 〒 514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060 三重県総合博物館
(メール送信先) MieMu(at)pref.mie.jp

(3) 「豊橋周辺の第四紀化石」

日 時： 2015 年 7 月 19 日 (日) 13:30 ~ 16:00

会 場： 豊橋市自然史博物館 講堂

定 員： 80 名 (事前登録制)

料 金： 無料 (事前登録をして無料の入園許可証を取得して下さい)

講演内容： 『豊橋とその周辺の第四紀哺乳類化石』 安井謙介 (豊橋市自然史博物館)

『更新世中期渥美層群の化石と研究史』 松岡敬二 (豊橋市自然史博物館)

申込方法： 豊橋市自然史博物館 (0532-41-4747) に電話で連絡し、事前登録をして下さい。
定員になり次第、締め切ります。

(4) 「第四紀学研究から明らかになった地球環境」

日 時： 2015 年 7 月 25 日 (土) 14:00 ~ 17:30 (開場 13:30)

会 場： 名古屋大学 野依記念学術交流館 2F コンファレンスホール

料 金： 無料

講演内容： 『第四紀の気候・環境変動』 竹村恵二 (京都大学)

『日本列島における最終氷期以降の地形環境変動』 海津正倫 (奈良大学)

『地層から読み解く過去の巨大地震・津波』 澤井祐紀 (産業技術総合研究所)

『第四紀試料と放射性炭素年代』 中村俊夫 (名古屋大学)

(5) 「第四紀年代学、古気候学、考古学が解き明かす人類進化史の真相
 -ネアンデルタールの消滅とホモ・サピエンスの拡散-

日 時： 2015年7月26日(日) 14:00～17:30(開場 13:30)
 会 場： 名古屋大学 野依記念学術交流館 2F コンファレンスホール
 料 金： 無料
 講演内容： 『ネアンデルタール人はいつ消滅したのか?』 大森貴之(東京大学)
 『最後のネアンデルタール人が遭遇した気候』 大石龍太(国立極地研究所)
 『ネアンデルタール人の消滅と新人サピエンスの拡散』 門脇誠二(名古屋大学)
 『ネアンデルタール人とホモ・サピエンスの環境適応能力：彼らは共存できたのか』
 近藤康久(総合地球環境学研究所)

【関連展示】

(1) 『あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～』

会 場： 三重県総合博物館 企画展示室、交流展示室
 期 間： 2015年7月11日(土)～8月30日(日)
 入場料： 一般 800円、学生 480円、高校生以下は無料。
 展示物： 古生代～新生代の昆虫化石(第四紀の昆虫化石を含む)

(2) 『豊橋周辺の第四紀化石』

会 場： 豊橋市自然史博物館
 期 間： 2015年6月27日(土)～7月19日(日)
 入場料： 無料
 展示品： 渥美層群や谷下層の動植物化石

(3) 『第四紀における人類の進化と文化』

会 場： 名古屋市博物館展示室
 期 間： 2015年7月4日(土)～7月26日(日)
 入場料： 無料
 展示品： アフリカにおける原人～新人への人類進化に関わる石器標本(約30万～4万年前)

◆ INQUA 期間中のサポーター募集：スタッフとして大会に参加しませんか。

2015年7月26日から8月2日まで名古屋国際会議場で開催される国際第四紀学連合第19回大会(XIX INQUA Congress)の会場でのサポーターを募集致します。

作業は、受付、講演会場やポスター会場や休憩室での補助、誘導係などになります。

期間は、26日午後から、以降は期間中の朝8時半から20時までです。

謝礼は1時間1000円で、学振PDなどで受領できない場合は別途考慮致します。

スタッフとして大会に参加が可能ですので、是非INQUA大会を支援して頂けますようお願い致します。

日程や時間配分は、7月に入ってから調整致します。

希望者は、氏名、所属、学年・職名、Email、日時等の希望を、6月末までに登録のメールアドレス<staff(at)inqua2015.jp>にお送り下さい。皆様のご協力とご支援をお待ちしています。

◆土 隆一先生のご逝去を悼む



日本第四紀学会名誉会員の静岡大学名誉教授土 隆一先生は、去る4月2日、ご逝去されました。享年86歳でした。

先生は1929年1月に台北市で生まれ、1951年3月に東京大学理学部地質学科を卒業されました。そして、1951年4月に東京大学大学院に進学されましたが、同年10月に静岡大学文理学部に助手として奉職され、その後、講師、助教授、教授になられ、1992年3月に静岡大学をご退職されました。静岡大学在職中の41年間に、静岡県内の中新世から現世までの海成層およびそれらから産する海生貝類の記載分類学と化石層序学の研究を行い、それらの成果から静岡県中・西部の第四紀テクトニクスを研究してきました。1977年から1979年にかけて実施された文部省科学研究費・総合研究「太平洋側と日本海側の新第三系の対比と編年」では、研究代表者をつとめ、1979年に「日本の新第三系の生層序及び年代層序に関する基本資料」を公表されました。また、1983年には静岡市で開催された日本第四紀学会の大会を運営し、シンポジウム「南部フォッサマグナ・フィリピン海プレート北縁のネオテクトニクス」を

開催しました。このシンポジウムの内容は、1984年に出版された「第四紀研究」の23巻(2)に掲載されています。その巻頭で、土先生は、「この地域では近い将来に、“東海大地震”の発生の懸念がしばしば議論されている。これは、この地域の近年の調査研究を推進した1つの要因でもあった。しかし、確度の高い地震の予知予測のためには、過去の“東海地震”の発生機構と地殻変動の関係の究明も最重要な課題であろう。その意味では、今回のシンポジウムは第四紀研究の地域社会への還元の一助になればという願いもあった。」と記されています。このように土先生は、第四紀研究を含む地球科学の地域社会への還元を強く意識されており、「静岡県地質図 1:200,000」をはじめ、計37枚の地質図を作成されています。また、静岡大学の在職中から静岡県内の自治体の様々な委員を務められ、ご退職後も静岡市内に研究事務所を開き、委員を務められていました。

最後に、これまでの土先生のご業績と第四紀研究へのご貢献に敬意を表し、ご冥福をあらためてお祈り申し上げます。

北村晃寿（静岡大学大学院理学研究科地球科学専攻・防災総合センター）

◆日本第四紀学会 2014 年度第 6 回幹事会議事録

日時：4月29日（水・祝）10:00～16:00
 場所：明治大学駿河台キャンパスグローバルフロ
 ント7階C4会議室
 出席：小野会長、吾妻、卜部、岡崎、奥村、北村、
 齋藤文紀、齋藤めぐみ、藤原、水野、米田、久保（オ
 ブザーバー）
 欠席：出穂、小森、佐藤、宮内

＜報告事項＞

庶務（北村）

1. 2014 年度第 5 回議事録の送付（150304）。
2. 2014 年度日本第四紀学会選挙管理委員会第 1 回会合を 2015 年 3 月 21 日に開催し、選挙の日程等の確認を行った（150321）。
3. メール審議により、前回幹事会の退会者と今回幹事会までに退会届けを提出した 7 名を 2014 年度日本第四紀学会評議員選挙の被選挙人名簿から除外することを了承した（150328）。
4. 2014 年度第 3 回評議員会を 2015 年 5 月 24 日（日）13:00～14:00、幕張メッセ国際会議場・会議室 101B で開催することを評議員に通知した（150406）。
5. 中村俊夫会員から名古屋大学宇宙地球環境研究所（仮称）を共同利用共同研究拠点として文部科学省へ申請するに当たって、本学会からのサポートレターの提出の依頼があり、これを承諾した（150409）。
6. 会員 ML で日本第四紀学会評議員選挙の実施について配信した（150414）。
7. 会員 ML で山本信雄会員の逝去と被選挙人名簿からの除外を配信した（150414）。
8. 学会 HP の新着情報に、2015 年度日本地球惑星科学連合フェローに太田陽子名誉会員が顕彰された報告を掲載した（150414）。
9. 会員 ML で土 隆一名誉会員の訃報を周知した（150418）。
10. 第四紀広報パンフレットの改訂版の電子記録と印刷物を幹事に郵送した。
11. 1 名の逝去会員（佐倉 朔会員）の報告があった（150429）。

庶務（佐藤）

1. 浦安市長（松崎秀樹氏）から岩本広志・阿部裕寛他（2014）東京湾臨海部の埋立層における地震災害事例研究—液状化に関わる地質調査と常時微動測定併用の重要性—、日本第四紀学会講演集、44 巻、87 頁の転載許可願（転載先：浦安震災アーカイブ）があり（150306）、発表者からも許可を得ることを条件として、これを許可した（150413）。

2. （株）東京ソイルリサーチ関西支店から三田村宗樹他（1996）1995 年兵庫県南部地震による西宮・大阪地域の震害と地盤構造、第四紀研究、35 巻の図 1、2、4 の転載許可願（転載先：『関西地方における液状化の被害と最近の対策工法』日本建築学会近畿支部基礎構造・液状化対策研究会）があり（150406）、これを許可した（150415）。
3. 2015 年学会賞・学術賞受賞候補者選考委員会にて受賞候補者を選考中である。
4. 2015 年論文賞・奨励賞受賞候補者選考委員会にて受賞候補者を選考中である。

庶務（岡崎）

1. 第四紀研究の通帳の名義を変更することとした。

行事・企画（出穂・小森・米田）

1. 講習会「放射性炭素年代とベイズ推定によるデータ解析」の日程を「2015 年 5 月 20 日（水）～22 日（金）」から「2015 年 5 月 20 日（水）～23 日（土）」に変更した。また、講師のポストドクの研究者 2 名を 3 名に変更し、予算計上した。

渉外（吾妻・宮内）

1. 2015 年 JpGU 大会の本学会提案セッション（「ヒト—環境系」、「活断層と古地震」）の日程および発表プログラムが確定し、大会サイトに公表されている。
2. JpGU の環境災害対応委員会が主催するセッションに参加・協力する。

広報（齋藤めぐみ）

1. 第四紀通信 6 月号の掲載内容と担当者を確認し、原稿の締切日を 5 月 11 日（月）17 時とした。

編集（卜部・藤原）

1. 第 4 回編集委員会を 3 月 28 日に開催した。
 - ・ 54-2 号を出版した（論説 2、短報 1、書評 2）。
 - ・ 54-3 号は論説 1、受賞記念 1、資料 1、短報 1、書評 1 を掲載予定。
 - ・ 54-4 号以降の掲載論文は特集号の進捗によって構成を検討する。
2. 柏大会特集号「更新世・完新世の資源環境と人類」は 10 論文を掲載予定で、4 月 28 日時点で、査読中 7 編、未投稿 3 編である。
3. 任期満了にともなう編集委員の交代について任期満了の 8 名の委員から後任の推薦を依頼した。

会計（岡崎）

HP 担当 2、3、4 月の勤務時間（8、8、9 時間）分

を支払った。広報書記3月分32時間分を支払った。編集費の振込通帳名義を現編集書記名に変更することとする。

組織改革委員会（水野）

2015年4月5日（日）に第1回会合を開催した。新しい選挙用研究区分案のアンケートを実施することとし、評議員選挙用紙に同封して会員に発送した。

INQUA 関係

1. 約2300人が大会IDを取得し、約1700人が参加登録を完了。
2. セッションのコマ割りが確定し、各セッションの詳細な発表プログラムについても編成作業がほぼ完了。
3. ポスター発表を追加で募集。締切は5月11日（月）。
4. 学会からも展示ブースの出展をお願いしたい。
5. 現地協力者を募集するが、大学の授業期間中と重なるため、名古屋近郊の大学だけでは十分な人数を確保できない可能性があるため協力をお願いしたい。
6. 募金は目標額（600万円）の3/4の状態であり、引き続き協力をお願いしたい。
7. 普及講演会を7月中に5回開催。会場は名古屋市科学館、三重県総合博物館、豊橋市自然史博物館、名古屋大学博物館（2日間）。

<議題>

2014年のJpGU大会における第四紀学会展示ブース内容と担当者を検討し、次の通りとした。

- ・24日 第四紀研究特集号（5年分）・INQUA関連資料の展示、デジタルブック第四紀の販売、会費納入、入会申し込み、INQUA募金の受付を事務局が行う。
- ・25～28日の担当者については、渉外担当幹事が調整することとした。
- ・24日のブースで扱う内容に関しては、会員MLに配信することとし、文面を齋藤めぐみ広報幹事が作成することとした。
- ・入会申込書については、会則変更との整合性を確認し、奥村副会長が調整することとした。

第3回評議員会議案（顕彰関係）

議案は2015年学会賞・学術賞受賞者、2015年論文賞・奨励賞の受賞者（受賞論文）の決定のみとし、時間があればINQUA関係の報告・宣伝をすることにした。

2015年早稲田大会に関して

・スケジュールは以下の通りとした。

8月29日

- 10:00-13:00 評議員会
- 13:30-14:30 ポスター口頭説明（希望者のみ）
- 14:30-16:00 ポスターセッション
- 16:15-17:00 阿部彩子会員 学術賞受賞講演（質疑応答込み）
- 17:15-17:45 各賞表彰式（受賞講演会と同じ会場）

18:00- 懇親会

8月30日

- 9:30-12:30 シンポジウム
- 14:00-15:30 総会
- 15:30-17:00 ポスターセッション
- ・学会HPに掲載されている日本第四紀学会2015年大会発表申込書にある「懇親会の出欠予定の調査」の文言を以下の通りとした。
 - ・「懇親会の出欠予定の調査」を「懇親会の出欠」
 - ・「（ ）出席の予定。」を「（ ）出席」、「（ ）欠席の予定。」を「（ ）欠席」とし、「（ ）未定。」を削除する。
 - ・「懇親会の日時を8月29日18時予定」を「懇親会の日時を8月29日18時」とする。
 - ・2014年学術賞受賞者講演会と公開シンポジウムは無料とし、ポスター発表会場の入場料は2000円とする。
 - ・2014年学術賞受賞者講演会と公開シンポジウムの資料は無料とし、ポスター発表の講演要旨代は幹事会で決定する。
 - ・公開シンポジウムのポスターを作製し、教員センター等に7月末までに送付・広報することとした。

2016年大会会場

千葉大学（西千葉キャンパス、けやき会館）にて開催の予定。開催時期は会場予約の都合で、9月17日（土）～19日（月）あるいは16日（金）～18日（日）のどちらかとなる。最初の2日間は一般研究発表、3日目にシンポジウムとなり、巡検を組む場合は4日目が必要となる。

日本ジオパーク委員会委員の交代承認

これまで小野 昭会長と日代邦康会員とが、学会推薦で、日本ジオパーク委員会に参加していたが、小野会長が多忙であるため、2015年度から橋詰 潤会員を委員として本学会から推薦することとした。

会員入退会

・5名の入会申請と、5名の退会申請を承認した。

追悼文の体裁等

追悼文の体裁等を審議し、以下の通りとすることとした。

- ・会員メーリングリストに配信する逝去会員は会長経験者・名誉会員とし、文面は、「本会会員の〈所属〉、〈氏名〉氏は□年□月□日逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。」とする。

第四紀広報パンフレット

5月2日までに修正箇所を北村まで連絡することとした。印刷部数は1000部とし、初校を幹事が確認する。

XIX INQUA への日本第四紀学会のブースの設置

XIX INQUA に日本第四紀学会のブースを開設(30万円)することとし、展示ポスターの内容を

(1) 日本第四紀学会の歴史の概略、(2) 日本の第四紀学に関わる景観の紹介、(3) 下・中期更新世のGSSP候補地の養老セクション、とすることとした。(1)と(2)は齋藤めぐみ広報幹事が担当することとし、(3)は齋藤副会長が関係者に依頼することとした。(2)の内容は、「火山とテフラ」、「断層と地震」、「山地と氷河地形」、「海岸」、「考古・人類」、「動植物」とし、幹事が写真と英文説明を集めることとした。(1)と(2)のポスターの原案は次回評議員会までに作成する。

次回幹事会

7月4日 10:00～15:00 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター内 広島大学東京オフィス408号室

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届」として提出して頂くことになっています。

2015年度(2015年8月1日～2016年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2015年7月31日(金)までに日本第四紀学会事務局まで郵送して下さい。本届が提出されない場合は、2015年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

なお、2014年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com

TEL: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性
ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX：029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイル
を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176